

伊予市

じんけん教育

2012
No.

15

一人ひとりの人権が尊重される、明るい伊予市をめざして

編集・発行/伊予市教育委員会(〒799-3113伊予市米湊768番地2 ☎089-982-5155)愛媛県人権教育協議会伊予市支部

地域の中で 育つ子どもたち

中山幼稚園

中山幼稚園は、中山町の中心部にあり四季折々の豊かな自然に恵まれた全園児十八名の小規模園です。

「子どもは地域の宝」として大事にされ、地域の方々と触れ合いを通して、「自分らしさを生かしながらいきいきと表現できる幼児の育成」を目指して温かい雰囲気、ゆつたりとした時間の中で保育に取り組んでいます。

中山小学校の児童とは、園に遊びに来てもらったり、小学校へ遊びに行ったりして交流を深めています。卒園児が多いこともあり、名前呼び合ったり仲良しになります。



大きくなってね!!

ました。

また、中山中学校からは授業の一環として来園してもらい、生徒たちが考えた遊びを一緒に楽しんでいきます。



だるまさんがころんだ!

「お兄ちゃん、大きいね」「お姉ちゃんに抱っこしてもらって」と小学生とは違

た「プレゼントもらったよ」と楽しく触れ合うことができました。

中山高校からは「ヒヨコが生まれたの

で見に来ませんか」とお誘いがあり、ま

ず、年長児が見に出かけま

した。園に帰ってきた年長

児が「かわいかったよ」「抱っこしたよ」と撮



フワフワしてるね

を見せながら話してくれ、年中児・年少児も見に行きたくなり出かけました。「わあ、かわいい」「温かいね」と、生まれたばかりの小さな命を直接感じることができました。



なんだかドキドキ~

小学校へ出かける時、通り道にある神社で、数珠送りをしていました。さっそく参加させてもらいやり方を教えていた

だきながら一緒に数珠送りをし、「元気で大きくなりますように」とお願いしました。

気持ちよく参加させていただいた地域の方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。

このように、様々な人とかわることでいろいろな体験をすることがあります。やさしく接してもらったこと、思いやりの気持ちを知り、友達にも優しくしようという気持ちが生み出されると考えています。地域の方々と触れ合うことで自分の育ったふる里を誇りに思い、ふる里を大切に思う気持ちをもって健やかに成長してほしいと願っています。

人権・同和教育への取組

「家庭・地域とのつながりの中で」

伊予市立南山崎小学校

南山崎小学校では「豊かな心を持ち、たくましく生きる南山崎の児童の育成」という学校の教育目標のもと、人権・同和教育では「心のつながりを深め、共に伸びる仲間づくり」を目標とし、「わたし大好き、友達大好き、学校大好き、南山大好き」をキャッチフレーズに、教育活動に取り組んでいます。今回は、「家庭・地域とのつながり」という視点から、「命・人権」について考える参観日「地区別人権同和教育懇談会」について紹介します。

命・人権について考える参観日

本校では、命の尊さについて、学校と家庭が共に考えていきたいという願いから、「命・人権」について考える参観日「」を行っています。今年は、日曜日に実施したところ、例年よりも大変多くの方に参観していただきました。

当日、低学年は「命」を、中学年は「互いを認め、支え合う仲間づくり」を、高学年は「人権」を主なテーマに授業を公開しました。実施後のアンケートからは、「子どもたちの『生命』に対する素直な感想や考えが聞けてよかったです。へその緒を見せながら、生まれたときの親の気持ちを伝えてみようと思



二年生「おへそのひみつ」



六年生「権利の熱気球」

います」という声をいただいた一方、「今、生きていく自分自身が最も価値あるものであることを、もっと分かってもらえるような内容に」といった声もいただきました。ご家庭からの意見を新たな課題とし、人権・同和教育をより充実させていきたいと考えています。

また、今回、五年生は「人権啓発ビデオ」を制作し、高学年全員に視聴してもらい、その感想をもとに人権について考えるという授業を行いました。いずれは、全校児童がともに考える「人権集会」を開催できればと考えています。その際は、どうか、またご参観いただき、ご意見をいただければと思います。

地区別人権・同和教育懇談会

本校では、地区別人権・同和教育懇談会において、子どもたちの人権啓発作品を紹介しています。最初は、その地域の子どもたちが作った作品を、多くの方に見ていただいたり、聞いていただいたりして、地域の子どもたちをもっと知っていただきたいという願いから始めたものでした。

すると、そのことをきっかけに、懇談会に三世代そろって参加する家庭が増え、人権について家族みんなで考えるいい機会になっているようです。今年は、人権作文の中に次のような内容がありました。最後にその作品の一部を紹介し、本校の人権・同和教育についての取組の紹介を終えたいと思います。

去年、集会所に行くと、今の六年生が人権作文を読んできました。それまで、人権のことはあまり知りませんでしたが、何となく「みんなが幸せに生きるには大切なことなんだ」と感じる事ができました。…みんなでDVDも見ました。近所の人がもめて、仲が悪くなっている場面がありました。自分の権利も大切だけど、相手の立場になって考えることも人権を考えるときは大切なんだと思いました。…

〜一部抜粋〜 (五年生児童)

愛媛県人権教育協議会伊予市支部総会

2012(平成24)年6月11日(月)

伊予市市民会館



多くの皆さんの参加のもと、本年度の愛媛県人権教育協議会伊予市支部総会が伊予市市民会館で開催されました。春田支部長のあいさつに続いて、中村市長はじめ来賓の方からご祝辞をいただきました。

開会行事のあと、総会に移り、支部活動の基本方針、事業計画、予算の審議を行い、質疑と意見交換後、出された議案はすべて満場一致で承認されました。

記念企画

「第63回全国人権・同和教育
研究会の記録」

記録ビデオ視聴30分

昨年十一月、鹿児島市で

第六十三回全国人権・同和教育研究大会が開催され、伊予市からも四十四名が参加しました。「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」の大会テーマのもと、「みんなで創ろう人権文化 みんなで築こう人権社会」の地元大会テーマと合わせて、二日間熱心に研究討議がなされました。分科会「人権確立をめざすまちづくり」では、愛媛県人権教育協議会伊予市支部を代表して、伊予市扶桑会館の職員が発表しました。



今年度は、記念企画として、全国大会の様子を編集した記録ビデオを出席者の皆さんに視聴していただきました。記録ビデオの内容から印象に残った言葉をいくつか紹介したいと思います。

★ 孤立して社会から切り離されてしまった大人たちが、自分の子どもだけと向き合おうところから虐待は始まる。誰かとながらすることで、苦しい育ちをした人の中にも救われた人がいる。助けを求められるつながりは、生きていく上で不可欠。孤立した親が、SOSを出せるようなネットワークの構築が求められている。誰かが解決してくれるのを待つのではなく、課題に気が付き見つけた者が呼びかけ協働して克服への道を歩まなければならない。

(募調提案より)

★ 自立とは「人に頼らず何でも自分ひとりできるとなること」「人に迷惑を掛けないようにすること」と思っていた。しかし、「自分ができないことを人に頼める、頼まれる、そんな関係が成り立つ仲間を作れるようになること」が自立ではないかと思う。

(特別報告リレートークより)

★ 人が人を変えることは難しいが、人は人との出会いによって変わることができる。人と人をどうつなげていくか、そのような場をどう仕組んでいくか。共感的人間関係づくりや本音で語れる環境づくりをどう構築していくのか。そのような観点からの実践が進めば取組がさらに広がり深まる。

★ 人権教育・同和教育は自分を語ることから始まる。伊予市扶桑会館のように参加者が自分を語れたのは、語れる場があって、状況があって、共感できる仲間がいて自己実現できたのであろう。共感できる人の輪を丁寧に広げていった取組は今後の参考になる。キーワードは双方向の学びではなからうか。

★ 解放令が出された後、取組自体は実際何も進まなかった。百一年後の一九七二年、中学校の社会科の教科書にはじめて部落問題に関して記載された。百一年間、何もなかったにもかかわらず、差別はまだまだ残っている。寝た子をそのままにするのではなく、寝た子を正しく起こして人権確立に向けて取組を進めていく必要がある。

今後、学習や啓発の参加者をつないでいく。いわゆる顔の見える連携を進めていく必要がある。そして、つながりを深め少しずつ丁寧に広げるとともに学んだことを伝えていく、発信していくことが大切なのではなからうか。

(分科会より)

第59回

四国地区人権教育研究大会に参加して

2012(平成24)年7月5日(木)・6日(金)

高知市

「四国はひとつ」の合言葉のもと、伝統のある四国地区人権教育研究大会が高知市で開催されました。開会行事の後、各分科会に別れて、同和問題をはじめ様々な人権問題の解決と人権文化の構築に向けた実践並びに研究成果の報告があり、熱心な質疑と討議がありました。



(開会行事・全体会風景)

人権問題の解決は、単なる「心がけ」ではなく自分自身の自己変革を伴う「生き方そのもの」であること。一人ひとりがどのよう
に考え、何を
見ていっかが
人権教育を推
進していくた
めに重要なポイントです。世の中から差別問題や人権
侵害がなくなり、安心して暮らせる社会づくりのため
に、本研究大会で学んだことを生かしていきたいと思
います。

◆感想文紹介◆

「第59回 四国地区人権教育 研究大会に参加して」

高知市において開催された四国地区人権教育研究大会に参加しました。

一日目の午前中に開会行事並びに基調提案等が行われ、午後からは各分科会に分かれての実践報告が行われました。開会行事で披露された体験にもとづく人権劇が大変印象深く、人権尊重への強い想いが痛いほど伝わってきました。分科会は、第三分科会A「進路保障」に参加しました。以下、この分科会に参加しての感想を述べてみたいと思います。

二日間で四本の報告がありました。印象に残ったのは、特別な支援を必要とする子どもと不登校傾向を示す子どもとの進学問題でした。質疑や意見発表もこれらに関する事が中心であったように思います。私は、中学校教育に携わる立場として、大変興味深く参加させていただきました。

ハンディのある生徒は、高校進学にあたって入学検査がある以上、まず合格・不合格というハードルを乗り越えなければなりません。次に、合格したとしても、

小中学校とは違い、十分な配慮がなされるという保障はなく、厳しい条件のもとで生活を送らなければなりません。進路保障とは、ただ卒業させるだけでなく、その子の将来を見据えたしっかりとしたビジョンのもとに行われるべきであると強く感じました。

発表報告があった事例は、いわば成功例であり、現実には、まだまだ厳しいものがあると感じました。また、受け入れにあたっては、学校だけでなく保護者も含めた連携を密にして、情報交換をしっかりと行い、学校組織全体で取り組まねばならないと痛感しました。

これまで、何度か人権教育の研究大会に参加しましたが、進路保障の部会への参加は初めてであり、大変新鮮な視点で人権を見直すことができました。貴重な研修の機会をいただき感謝いたします。



(分科会風景)

平成24年度

第14期 オピニオンリーダー養成講座

伊予市では、市民の人権が尊重されるよう『伊予市人権を尊重する社会づくり条例』を制定しています。同和問題をはじめ、様々な人権に関する諸問題を解決するために、地域に根ざした啓発活動を展開していく推進者づくりをめざして、この講座を実施しました。

本年度は60名が参加して、5月31日から6月28日までに5回実施しました。講座は、5名の講師団が担当し、講義や参加体験型のワークショップ等、内容の充実した幅広い学習をしました。



講座の様子



「オピニオンリーダー」とは、皆様にとってあまり聞き慣れない言葉ではないかと思えます。自分たちが生活や仕事をしている環境の中で、もし、周りの人に人権に関する間違った考えや意見が出た場合、「そんなことではないんだよ。このようなことなんだよ。」と、適切な助言ができる人のことを意味しています。

参加者の感想

差別をはじめたのは人間。でも、それをなくすことができるのも人間です。もっと真剣に考え、周りの人たちに伝えていけるようになったらと思います。

就学前から学校を卒業するまで継続して計画的に一人ひとりに応じて適切に支援することの大切さが分かった。障がいのある人もない人も、同じように社会の一員として参加して生活することがとても大事であることが分かった。そのような環境づくりをこれからしていきたい。

男女共同参画社会について、少し勘違いをしていたことに気がついた。男女共同参画社会と聞くと、女性の地位向上、差別の撲滅というイメージが強かったからだ。そうではなく、男女関係なく共に歩んでいく社会であることを認識できた。

普段、何気なく口にしてる言葉や行動が相手にとって配慮がないことになっていることに気付かされた。

自分の思っていることが普通だと思えることが多いけど、相手の立場に立っていないことの方が多いのかも知れない。

「ことば」について 考えてみましょう

昨年度の地区別・人権同和教育懇談会では「人権のヒント」のビデオを視聴しました。街の喫茶店のママのところに様々な思いをいただいた人々が集まり、その交流のなかから「人権のヒント」を考え、それぞれの違いを思いやる心の大切さを理解していく内容でした。

東日本大震災後、しばらくの間テレビ番組の途中にある宣伝が自粛され、かわりに「思い」は見えないけれど、「思いやり」は誰にでも見えるという内容のことが度々放映されました。このことは皆さんご存知のことだと思います。この「思いやり」は「ことば」に表れると思われれます。平成二十三年度に募集しました人権啓発作品の「詩の部」のなかに、このことばを取り上げたものがありますのでご紹介いたします。



「ことば」

北山崎小 藤岡 涼さん

自分が何気なく言った言葉が人をどれほどぎずつけたのかその言葉を言った自分には

分からない

でも

言われた人は

心のおくがぎずついている

そんなときばくは

その人の心の中をたずね

ごめんなさい

と言いながら

消しゴムとえんぴつで

言葉を修正していく

そういう素直な

自分でいたい



「木は光を浴びて育つ」ように、人は「言葉を浴びて育つ」ともいえます。改めて自分自身の【ことば】について考えてみませんか。

人権問題に関する 市民意識調査に ご協力ください

伊予市では「伊予市人権を尊重する社会づくり条例」を定め、人権が尊重される地域社会の実現に向けて様々な取組をしています。この取組がよりよいものになるよう、五年ごとに標記の調査を行っています。

今年度この調査を実施することとなりました。二十歳以上の方を対象に千五百人を無作為に抽出してアンケートにご協力いただく予定です。設問にお答えいただくなかで、改めて人権とは何か、自分自身はどうなのか等を考えるいい機会になればと思います。また、この調査から分かること、考えられることをまとめ、これからの教育・啓発活動に生かしていきます。

人権が尊重される伊予市のまちづくりを実現するために、皆様のご理解ご協力をよろしく願います。